

令和4年度 白川郷学園 音楽科研究構想

【研究主題】一人一人の学びが加速し、「先を読む力」を発揮する姿を目指して

音楽科が育てたい「ひとりだち」した人物像
生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育み、心豊かな生活を営むことのできる人

研究内容(1)9年間を見通した「先を読む力」の明確化

| 前期課程 | | | 後期課程 | |
|--------------------------------------|---|--------|--------------------------------|--------|
| 1, 2年生 | 3, 4年生 | 5, 6年生 | 7年生 | 8, 9年生 |
| 日常生活の中にある音や音楽を形作っている要素に沿って味わうことができる。 | 自分の生活体験などから曲の感じと音楽をかたちづくる要素などを結びつけて考える。 | | 曲のできた背景などから曲想と感じ取ったことを結び付けて考える | |

研究内容(2)児童生徒の多面的な実態把握と手立ての明確化

| 【日常的な実態把握】 | 【客観的データの活用】 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート ・発言やつぶやき ・プリントの記入 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト、実技テスト ・録音データ |

実態に適した児童生徒への手立ての明確化

研究内容(3)一人一人の学びが加速する学習活動の工夫

| | | |
|---|--|---|
| <p>○学ぶ目的や必然を感じ、見通しをもって課題追究する導入の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現及び鑑賞の各活動において、音楽的な見方・考え方を働かせることができる子を育てるために、音楽を聴いて自分の頭に浮かんだ情景やイメージは、「音楽を形づくっている要素」の何が根拠となっているのかを提示する。 ・教師の比較範唱や録音、適切範唱を聴かせることで、憧れや「もっと～したい」という思いから、自分の考えやゴールの姿を導き出させる。 | <p>○試行錯誤を生み出す展開の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師による意図的な中間発表の場を設定することで、他の小集団の音楽表現の創意工夫を知覚、感受させる。 ・小集団での対話や、音楽表現を試行錯誤する営みを繰り返すことによって、新しい視点に気付かせる。 | <p>○一人一人が学びを自覚し、自分でできた達成感を得られる終末の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一単位時間または題材間での自己の学びの変容や深まりを実感させるために、終末において、仲間との協同的な学びを個で振り返る場を設定する。 ・仲間同士で学びの変容や深まりを共有するために、全体交流の場を設定する。 |
|---|--|---|